

ですが、そのようなことにならないように、陽性者の発見後の体制等もあると思います。入国規制等について検討していらっしゃるかどうか、そのあたりお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 現在まだ、その入国規制等がはっきりと決まったわけではありませんが、今後、これについては協議を重ねてまいりたいと思いますし、私も来週に長崎出張の折に福岡のほうに回りまして、このC I Qの関係のほうに協議に参りたいというふうに計画をしております。もう議員御承知のとおり、このJ R九州の船も5 0 0人乗りということではありますけども、人数制限も一応は何かしているというような情報もお聞きしておりますので、こちら辺も参考にしながら今後、検討を重ねていきたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 持続可能な観光には、対馬がもたらす恵みをまずは対馬市民が享受できるシステムの構築が必要となります。昨日、糸瀬議員のほうから千俵蒔山の開発をしたらどうか、いろんな意見があつていいかと思えます。私は、あそこには環境省のレッドリストにも載っているような希少な植物があります。そこで道路を広げるとなると、今、猪・鹿の被害でただでさえ少なくなっているものが絶滅してしまうのではないかということも危惧しております。泉一豊間の対州窯の前の道路整備がされましたけども、あそこにハクウンキスゲが自生していたんですが、全てなくなりました。そういった観点からも、しっかり自然環境の保全ということについても考えていただきたいと思えますし、スポーツフィッシングを今、いろんなところが誘致しようとしています。たくさんの魚を捕って持って帰る、そういうものではなくて、例えば昆虫等についても、数人で来てツシマヒラタクワガタをたくさん捕って帰っている、そういうこともお聞きしています。対馬の自然環境を守りながら対馬の自然環境を楽しんでいただく、そういう観光に向けた考えというのをしっかり共有して進めていきたいと思えますので、どうぞよろしくをお願いします。

○議長（初村 久藏君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からとします。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、大変お疲れさまです。改めまして、会派對政会、13番

議員の波田政和でございます。市長をはじめ皆様方におかれましては、連日のお付き合いでお疲れとは思いますが、今議会、私で最後の質疑でございますので、島民皆様方に納得していただける質疑応答であることを願っておりますので、よろしく願いしておきます。

質疑に入る前に、今回、通告しております外国人観光客の受入体制と方向性についての質疑で、今日までインバウンド施策に関し、比田勝市政での取組の成果や総括がなされてあると思います。本市のインバウンド施策においては、一つのブームが去り、終わり、また新しく取組がなされる兆しが見えてきております。それに伴い、市長は今後、どのような施策をお持ちなのか、また今後の取組について、まず自席からでよろしいと思いますが、コメント、所見を初めにお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 外国人観光客の受入れにつきましては、これまでも事あるたびに申し上げておりますけれども、今までみたいに同じ轍を踏まないように、オーバーツーリズムになり過ぎないように、そしてまた、せっかく増えてきました国内観光客を減らさないように、この2つを念頭に対馬の観光対策を進めてまいりたいという考えでおります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。ただいまのコメントで市長の考え方が大体分かったような気がいたしておりますが、インバウンド施策につきましては、幾つかの取組が一連の流れとなつて島内消費へとつながっていくと思っておりますが、自己責任、自己決定での取組とはいうものの、しっかりとした分析で行政主導の下、取組がなされることを強く望むものであります。

私が今回取り上げております外国人観光客の受入体制と方向性についての質問は、また後ほどさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

では、本題に入ります。通告の順番を変え、まず、「ふれあい処つしま」周辺道路の路側灯についてお尋ねします。

この周辺路側灯は、設置時より車両での乗上げ接触事故は多発していることは皆様も既に御承知のことと存じますが、残念なことに、いまだもって対策不十分ではないでしょうか。もちろん運転手さん方の不注意は言うまでもありませんが、美観を重視し、安全対策が劣っていると感じております。

また、この付近は観光客がレンタカーなどで訪れる施設が多く、土地勘がない方々が多く利用されている場所でもあります。その反面、ふれあい処つしまの交差点から川端通りまでの市道横町線においては、ポール式の外灯が新設されております。このような計画をなされた経緯については承知はしていませんが、ふれあい処つしま付近の路側灯について、今後、改善のお考えはな

いか、特に各施設への出入口付近の対策を研究していただき、早急な対応を要望するものであります。後ほど、市長の認識と考えについてお答えください。

次に、「対馬朝鮮通信使歴史館」についてお尋ねします。

皆様も御承知のとおり、この歴史館は、昨年10月末に開館し、はや1年が経過していますが、この歴史館については、本市の観光部を中心に、歴史検証等を後世に残す財産として取組がなされてきたと認識しております。この歴史館の計画立案時から建設と、今日までの維持費を含め、これまでに多くの税が投入されていると思いますが、本市が当初計画した1年後の入館予定数に比べ、今日までの入館の実績がどのようになっていったのか、また、今後の取組や費用対効果に対する計画、また、地元にしみのある歴史館としての市民への役割周知などの取組がございましたら、紹介も含めてお願いしておきます。

最後に、外国人観光客の受入体制と方向性についてお尋ねします。

冒頭、市長よりコメントもいただきましたが、私としましては、今日までのインバウンド施策が果たして本市の消費と経済に効果が得られたのか、外国資本に振り回され、結果として負の連鎖で市民が苦しんだのではないのでしょうか。私は疑問が残るところもたくさんあります。本市のように少子高齢化が進む地域といたしましては、島内消費が減少し、外から入ってくるお金が本市の活性化へつながると、重要な役割の一つであると、私はじめ皆共通の認識だと思っております。

このようなことから、本市といたしましても、今日までの外国人観光客の受入れに対し、港を含め施設の整備、道路標識や案内板の整備、また、宿泊施設不足に対する問題解消への投資、さらには、平成15年から続く、釜山事務所の運営経費など、様々な分野において多額の税を投入してこられたのではないのでしょうか。

しかしながら、結果として、インバウンドで恩恵を受けるはずであった民間では、ホテルや観光バス等では利用を格安にせざるを得ない状況、また、飲食店に至っても、低価格で食事の提供を余儀なくされたり、結果として安売りの一面が見受けられております。

これまでの本市のインバウンド施策が市民に十分歓迎されたとは言い難く、今後においては同じ轍を二度と踏まない、先ほどの市長の答弁でありました。私も同じように感じております。本当の意味で市民に還元される施策の検証材料としていただき、これまでになかった形での行政主導のインバウンド施策を確立させていただきたいと考えております。

その一環の考え方として、SDGsの理念から持続可能な観光都市を目指し、一人として取り残さないためにも、いま一度、原点に戻り、右往左往することがない施策に転換すべきであると考えております。

先ほども話があってございましたが、アフターコロナ、ウィズコロナの時代を迎えた本市に、こ

れからの観光産業の在り方、国内・国外共に本市へ観光に来ていただける魅力ある島づくりの挑戦に力を入れていかねばならないと考えますが、市長の答弁もここで求めたいと思います。

以上、大きく3点に分けて質疑をしました。重複するところは省いていただいてもよろしいですけれども、冒頭に申しますように、分かりやすく明確に答えをいただけたらなと思っておりますので、また後、疑問がありますと再質問させてもらいたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 波田議員の質問にお答えいたします。順序が入れ替わりましたので、まず通告の3番目の、ふれあい処つしまの周辺道路の路側灯についてでございます。

設置の経緯といたしましては、平成13年より厳原郵便局より南側の主要地方道厳原豆殿美津島線、通称大町通りや対馬市交流センター周辺の市道など町並みの景観を検討するため、美しいまちづくり推進委員会等のワークショップにより意匠が決められ、市道横町線の市役所側約110メートルの区間の改築工事と併せ、平成18年度に完成しております。

完成当初より、商業施設の出入口で起こる車両の接触、乗上げ事故の報告を受け、繰り返し接触する箇所につきましては目視で確認できるようポール等を立て、現在に至っております。

年間数件の事故が起きている状況ですので、何らかの対策が必要だと感じておりますが、これまでふれあい処つしま周辺の景観に関しましては、多くの方々に携わっていただきましたので、市独自の判断が難しいため、関係各者と協議の場を設け、維持管理と景観のバランスがとれる手法を、いま一度精査してまいりたいと考えております。

次に、昨年10月30日に開館した対馬朝鮮通信使歴史館についてでございますが、入館状況としましては、11月末時点で総観覧者数4,629人、月平均に直しますと約330人となっております、その中で市外の高校の修学旅行を3件、市内小中学校の地域学習を4件受入っております。

朝鮮通信使歴史館は、朝鮮通信使に関する記録が、ユネスコ「世界の記憶」に登録申請されたことを受け、朝鮮通信使対馬顕彰事業会が対馬市に対して朝鮮通信使によるまちづくりを提言したことを契機に構想されたものでありまして、「朝鮮通信使に学ぶ誠信の交流」をテーマに、朝鮮通信使の歴史や対馬との関わりを紹介しております。

また、朝鮮通信使に関する記録は、2017年10月、ユネスコ世界の記憶に登録されており、申請は財団法人釜山文化財団とNPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会の日韓共同で行われております。

このような経緯を踏まえ、今後の取組としましては、釜山市に設置されています釜山朝鮮通信使歴史館との交流による活用や、航路再開後の韓国からの観光客の方々に、誠信の交流による朝

鮮通信使と対馬の関係を認識してもらう場としての活用を進めていきたいと考えております。

また、市内の小中学生のまちづくりのための地域学習の場としても活用を進めてまいりたいと考えております。

3点目といたしまして、外国人観光客の受入体制と方向性についてでございますが、外国人観光客の受入れにつきましては、国の水際対策緩和により、令和4年10月11日よりビザ免除措置が再開されましたが、ワクチン接種証明書、または出国前72時間以内に受けた陰性証明書のいずれかを提出する措置は、現在も残っております。

国は、港における国際線受入れの再開について、今後の就港予定に応じ、地方公共団体等の協力を得つつ、個別港ごとに受入れに係る準備を進め、これが整い次第、順次、国際線の受入れを再開すると発表しております。これにより、博多港においては11月4日からJR九州高速船が制限付きの運航を再開しており、本市におきましても再開に向け関係機関と調整を進めているところであります。

また、市内では、対馬おもてなし協議会を主体に、観光関連事業者に対し、国際航路の就航動向などについて、8月、10月に厳原、上対馬の2会場でそれぞれセミナーを行い、情報の共有を行っております。

コロナ禍で観光の在り方が見直され、観光目的も個々の価値観に応じた観光へと変化しつつあります。このような変化に応じ、従来の「見る観光」から「知る・学ぶ・体験する観光」が必要となります。対馬は独特の歴史や伝統的な文化、豊かな自然、体験などを楽しむコンテンツがあり、この特殊性を生かしたサービスを展開することで観光客の心をつかむことができるものと考えております。

また、持続可能な観光へと転換するためには、対馬のありのままの姿を観光素材として活用することが重要であります。このスタンスは、外国人観光客についても同様であり、アウトドアや歴史、体験などに関心が強い客層への誘客を図ることでインバウンドの回復につながられるものと考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。

それでは、再質問をさせていただきますが、まず1点目の、ふれあい処周辺の整備について、今、当時からのお話があつておりましたが、市が単独でいじることはできないという市長の答弁でありましたが、先ほど申しますように、美観を重視して安全性に欠けると言っているわけですから、誰かがどうかするか、研究せないかんじゃないですか。そういった意味合いから、今回これをわざわざ取り上げるほどのことでもないかもしれません。しかしながら、逆に、簡単に言

えば、あそこに車が乗り上げて、業者が来るまで放っとく時間帯、そういうところ、逆におかしいじゃないですか、傍から見たら。そういった意味合いから、進入口付近の若干のポール、目視できるような物もあります、確かにですね。ないとは言いません。しかしながら、あそこは1か所、2か所やじゃないじゃないですが、入り口がですね。ヒヤッとした体験を通して、かなりの件数が出ているんです。

私が今回、取り上げたのは、市長も御存じのように「分かっておりますが」という答弁ですから、分かってしないということは、おかしいじゃないですか。よく災害補償なんかで、やらなくてはいけないことは迅速にやっておりますが、これも同じと思うんですよ。美観か、安全性かと私は問っておりますので、安全性を重視してくださいということを今回お願いしたいんですね。この件に関したら、いろいろ協議していただきながら早急に対応ができるものと、最優先でですね、私は思っております。

そんな中で、ひとつ市長に、褒めるわけじゃございませんけども、対応をですね、さきの議会で、私が久田ペンション入口の学校通学路、この話は安全対策を要望しました、ここで。そうしたら早急、迅速な対応で、すぐ分かりやすく通行しやすいようにつくっていただいた経緯があります。ここで住民は、すごく喜んで、感謝を市長さんに伝えてくださいという言葉もあっておりますので、この場を借りて紹介しておきますから、そういったことも踏まえて、迅速な対応が市民は求めておるということを再認識していただけたらありがたいかなと思っております。

この件は、言うように、早急な対応を望むということで終わりたいと思っております。よろしくお願いしておきます。

続きまして、外国人観光客の受入方向性について。先般、厚生労働省は、専門部会で、コロナウイルス感染症法上の取扱いについて、見直しに向けた議論を本格化しております。皆さんも既に御承知と思いますが。要は、感染力において感染症2類から5類に引下げて今後やっていくということを皆さんも理解してあると思います。この新型コロナ2類相当と位置づけられ、感染拡大を防ぐため厳格な対応がとられておるのは御承知と思っておりますが、今後、仮に5類への引下げが決定した場合でも、本市においては外国人の入国時の検疫などの規制が緩和され、本市へ渡航者が増加する可能性も出てくるじゃないですか。

しかしながら、いきなりそうなったとしても、感染力とかそういうものも変わるわけじゃございませんから、それは基準が変わっただけの話になるじゃないですか。その辺も含めて対応をお願いしたいわけですね。

先般、新聞記事によりますと、本土と比べて離島は医療体制が弱いと、航路再開に向けてハードルは高いと、こういうコメントも出ておりました。そういうことから考えますと、以前のようにいきなりフルスペックは難しいと誰もが認識するところでもあります。そういった意味から、い

かに地域住民を守っていくかということが、先ほどから言います行政主導の下、対策体制を強化すべきであるとは思っております。

先ほどからも話があっていましたが、制限する、しないという話もあっていましたが、今までは、市長、民間の流れについていただけですよ、行政は。先ほどから言いますように、それじゃなくて行政主導の下、やる体制をとったらどうかと、それが市長が唱える誰一人取り残さず安全に守っていくということになるんじゃないですかね。私はそういうふうに思っております。その辺の今後、兆しが見えてきて、先ほど言いますように、民間主導の下であると従来と同じ答えが出ると思うんですよ。だから市長が、対馬市はこういう方向性でいくんだということを明確にしてもらえれば、また違った形が生まれてくると。

先ほどから、今後、インバウンドに関しては、あちこちで協議しながら取り組んでおるという話も出ておりましたが、それは事務的レベルの話であって、対馬は正直な話言いまして、航路を持った方々が力を入れてやるしかないじゃないですか。だから、ここが今後、取り組まなくちゃいけないところじゃないかなと思っております。

だから、以前も、状況次第でしばらく来んようになったりいろいろした経緯もあるじゃないですか。だから、継続的にやれるこの観光産業といいますかね、この辺は、私は市が中心になってやらない限りは、また同じことが起こるんじゃないかなと。どなたさんも経済効果がたくさんあって云々という話は度々聞きます。しかしながら、結果は、先ほど申しますように、終わってしまったら何が残ったんだろうかなというのは今の答えじゃないですか。

だから、私は対馬市が主導権を持ってやっていただくことが安定につながるんじゃないかどうかと個人的には思っております。この辺も私なりに思いはありますが、市長どうですか、ここは一度、御答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、大きく分けて2点、質問いただいたと思っております。

まず、この新型コロナ感染症を、現在の2類から5類へ移行を今、検討をしているということでもあります。5類になりますと、普通の風邪相当になろうかと思っておりますが、ただ、この際は、新型コロナとなっても、薬代とか病院の入院代とか、そういったところも、まず、みんな個人負担になるということが大きな移行点になろうかというふうに思っております。

その際に、ただ、じゃあ外国人の方が入国をする際にはどうなるのかということは、ちょっと私もこのところは、まだ詳しいことは情報を入れていませんので、ちょっと差し控えさせていただきますけども、何らかのやはり施策は必要じゃないかなというふうに考えております。

それと2点目の、今後の外国人インバウンドについては、行政主導で進めてはどうかという御提言をいただきました。このことについては、私も冒頭申し上げましたように、これまでの外国

人観光客、特に韓国からの観光客については、最大41万人の観光客が訪れていた時分は、経済効果は、概算でありますけれども90億円を超えるような経済効果があったということで、賑わってはありましたけれども、ただこの波が去った後は、またそれ以上に関係事業者の方々は苦勞をされているというふうに感じております。

そういう関係で、これを今後は行政主導でしたほうが、進めたほうがいいんじゃないかということでもありますけれども、このことについては、私も今そういった御提言をいただきましたけど、果たしてこのことが行政主導がいいのか民間主導がいいのか、ここはまた多くの皆様の御意見等を拝聴いたしながら、一番いいと思われる施策を進めていきたいというふうに思っておりますので、現在ここでは、この行政主導か民間主導かということの是非については差し控えさせていただきますと思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。結論として、民間、行政どちらが主導権を握るという話じゃなくて、行政主導というのは、いろんなものを的確に判断しながらやって民間を助けていくという話です。対馬市が船を買って、どうこうしてくれて言っているわけじゃないのでね。

そういったことで、先ほど言いますように、自己責任決定でやったとしても、笑うのも泣くのも地元住民じゃないですか。しかしながら、そこに判断力というのが、やっぱり専門部署を置きながらでもやっていくのが安定につながると私は思っておりますので、この件も含めて、今後、同じことが起こらないようにやっていったらいかかなと提案をしておきます。

若干、この今後、起こり得る兆しに向かって、対馬まで来ていただくマナーといいますか、その辺を冊子でも作って、しっかり告知しながらでも理解してもらうのが大事じゃないかなと。いろいろ国民性もありながら、隣国における以上は理解しながら付き合わなくちゃいけないわけですから、どうしてもやらなくちゃいけないこと、しかし守ってもらえないこともたくさんあると思います。

しかしながら、次に、通信使の話になりますが、この場合も同じことが言えると思うんですよ。だから片や国同士が争いながら、今回、問題も起こりましたが、我々は隣国に住んでいる島の人間としたら、そういうことじゃないじゃないですかね。もう切羽詰まってるわけですから、皆さんも。その辺のところを考えながら、今後も取組をしっかりとってやっていただきたいと、このようにこの件は締めておきたいと思いますが、よろしく願いしときます。

それと、歴史資料館について。これは先ほど言いますように観光とつながりがありますから、重なる点も、重複する点多々あるかと思っておりますが、ここで私がこの歴史館の話を取り上げたのは、対馬市が「組織目標」というこういう冊子を作っておりますよね。部長ね、分かって



おる、そういうふうな中を拝見しますと、大体3つぐらい大きな柱があるようにあります。

その中で、この歴史資料館をしっかり活用するんだということが書いてあります。2点目には、この新型コロナの関係で、国際事業とか国内イベントとか支援を行うということも書いてあります。

そんな中で、この目標達成を、入館のこれは数は先ほどから話があっていますが、やっぱり今後、関連で博物館の話もさせてもらいますけれども、地元の方がここにいかに来館して、まず理解するかじゃないですか。以前も市長にその問いはしたんですが、博物館のときも入館しようが、せんまいが基本的には変わらんから、もう少し考えてくれよという話をしたけど、今どういうふうになっとるか、その後報告は聞いておりませんが、多分計画どおり入館者もあっているんでしょう。私はそういうふうに認識はしておりますが、ここでお願いしたいのは、中身、入館することよりもいかに理解していただくか、いかに宣伝マンになっていただくかということをお前も話をさせてもらいました。

だから、それと同時にいろんな、区長さんでもPTAでも各施設でもいいんですけどね、そういった方々が、しっかり、対馬はどういうとかと理解することが後世につながっていく宣伝マンであると私は思っておりますが、市長、この前回の話の中で、こういった公的施設の入場に関して、入館に関しての話をした経緯があるんですが、その後、どうなっていますかね、この辺は、ちょっと博物館も含めて、アバウトでいいですから経過を教えてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かにこの博物館について、市民を無料開放で入れたらどうかというようなお話を頂きました。そういうことで、その後、博物館のほうとも意見交換をいたしました。

その中で、来年4月のオープニング記念として、市民の皆さんを無料開放で入館させたらどうかというような意見も上がっております。まだ完全に決定してはおりませんが、どのような方法が一番いいのかを、今後また検討してまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。この歴史館の話も博物館もそうなんですけど、即効性の話をしていただきたいんですよ。来年するとか再来年するとか。歴史館にしても1年経つとるわけですよ。

そういう中で、成果として、直接市が運営していないかも分からんけども、やっぱりそこに来る人は、私はあそこで時々あの辺を通ったら、観光客は素通りしていますよね。ちょっとそれは異常じゃないですか。ということは、どこかが宣伝をしていないということですよ。旅行者を含めてですね。もう周囲は、あその前にバスが駐車しているんですよ、よくそんなことができますよね。だから、その辺は知らんのじゃないですか、あそこにあるというのを。決して、この資

料館は、個人的に自己満足でやっとするものではないはずなんですよ。公金で税をかけた立派なものしているわけですから。

運営そのものは、よく理解しておりませんが、こういうことと、この博物館と関連しながら、今ミックスで話しておりますが、市長、よかったら、いつでも行けない人たち、例えば老人施設とかいろんな人がおるじゃないですか、その人たちでも先にでも、やっぱりやってもらいたいですね。やっぱり本当で歴史を知って旅立つ人と、分からなくて行く人では全然違うじゃないですか。そのくらいの配慮を、我々はやるべきじゃなかるかなと思っておりますので、ここも迅速な対応をお願いしたいなと思っております。どうですか、市長、そこは。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほども答弁させていただきましたけども、先ほど一応オープニング記念の来年4月を今、検討しているということで申し上げましたが、このことについては、まだ協議中でありまして、今後また、ブラッシュアップしながら進めていきたいと思っておりますし、ただこの通信使歴史館の方については、まだここは本当、どういうふうにしていけばいいのかという協議にまで至っておりませんでした。ここも含めて、今後の検討課題とさせていただきたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。今の市長の答弁で、ひとつ疑問に思うのは、行政はつくるだけじゃないから、後をどうするのが大事じゃないですか。だから、今の話では、そのうちにそのうちにという話で1年経ちましたということを理解してください。

だから、やる気でやれば、すぐできる話じゃないですか。まあそれはいろいろな捉え方があるんでしょう。オープニング1周年記念で考えておるという話もありましたので、これしっかり信じながら、また皆さんに伝えていきたいなと思っております。

若干、時間がありますが、最後に、この外国人観光客、前回は、韓国が駄目なら中国とか何とかいう話もあってありましたよね。でも、それは基本的に無理ですから、そういう話はですね。そんな中で、やはり本市においたら、歴史が証明しておりますよね、本市と韓国の付き合いをですね。友好を維持するしかないじゃない。どうですか、市長、そこは。せんでもいいですか。歴史が証明するように、しなくちゃいけない、するべきであるという、先ほどからインバウンドの話をしておりますから、インバウンド効果が最終的に経済と消費につながっていくということは誰も分かっております。

しかしながら、先ほどいうように、行政指導をなぜ言っているかと言うと、そこら近所の計算も含めて手助けしてもらいたいわけですよ、民間はですね、それも含めて理解していただきたいなと思っております。

そういった意味から、友好を保っていかないかんけども、市民の安全安心も守らなくちゃいけないわけですよ。そういったことを考えたら、決していい加減な扱いをできないということはお互い自覚せんといかんと思っておりますが、市長、その辺は同じ統一見解だと思っております。

話は、江戸時代の話も少しさせてもらいますが、対馬存続のために国書を改ざんしたちゅう歴史がありますよね。ここは当時の藩主は、もう命を懸けてやったわけですよ。それが歴史顕彰しているんじゃないですか、資料館も含めまして。そしたら、それに成り代わって、比田勝市長さんが藩主でございますので、そのくらいの意気込みでやれないか、どうですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず初めに、韓国との友好ということについては、対馬市は本当、議員おっしゃられるように、歴史が示しておりますので、釜山影島区との友好協定のみではなく、韓国との交流は、これまで以上に進めてまいりたいというふうに考えているところでございますし、そしてまた、これまで旧対馬藩の勇気ある行動と申しましょうか、その当時のお殿様は、切腹覚悟で国書偽造をしたということが、特にこの博物館等につきましても示されて、展示もされているところであります。

そういうことで、私も切腹まではちょっとなかなか難しいところではございますけども、できる限りの知恵を絞りながら、職員そして議会等の皆さんと共に、対馬の活性化に向けて努力をしてみたいと考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。当時の藩主に匹敵するぐらいの比田勝市長の御英断に期待しながら質問を終わりたいと思いますので、よろしく願いしておきます。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、波田政和君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わります。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午前11時53分散会

---